

様式 4

平成30年度 第2回学校関係者評価報告書

鳥取県立境高等学校
 学校長 田淵 直記

評 価 日	平成31年2月1日（金）	
	評 価 ・ 提 言	学校の所見・改善策等
1. 今年度の自己評価について		
(1) 重点目標の達成状況		
○ 今の生徒は、中学校時代から家庭ではオンラインゲームに熱中する状況がある。高校でも家庭学習時間の定着に課題があるようだが、最低限、家庭で授業の復習をする時間を確保するよう一層指導を工夫する必要がある。		○ 月曜日のホームルーム前に週明けテストを実施したり家庭学習時間調査を実施したりして家庭学習時間の確保につとめている。今後も指導の工夫につとめたい。
○ 基礎学力の低下について、学びに向かう意識が高くなる生徒との差は広がるばかりである。一見、真面目に学習しているようだが学力が伸びない生徒への指導を工夫されることを期待する。		○ 今、学習していることが生徒一人ひとりの未来を広げることにつながることを意識化させていきたい。また、校内でのスマホ等の規制と相反する手法となるが、スマホ等で自学自習ができるように教材活用をすすめている。
○ SNSやスマホ等でトラブルの問題は、境高校に限らず全国的な問題である。人権教育のように1年次生から段階を踏んで学ぶ仕組みはできないか。		
(2) 説明・公表について		
○ 特に意見はなし。		
2. 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について		
○ 昔（10年程度前）と比べて、全国から講師を招いての授業改革、地域の社会人や卒業生の話を聞く機会の設置等、多くの事業が企画・実施されており、学校が努力している姿勢は評価できる。		○ SNS等でのトラブルについては合格者登校日から専門家の講演会を開催する等、その充実を図っている。
○ 小高連携の取組は、地域の児童に境高校への憧れを抱かせ、様々な面で児童のモチベーションを向上させている。スクールプロジェクトや音楽を通しての連携、多読用絵本等の貸し出しは是非継続してほしい。		○ 地域との連携に係る事業を継続実施し、地域の期待に応えていきたい。
3. 取組改善のための提言		
○ 生徒の主体性を育てるには与えすぎない視点も必要ではないか。		○ 「境考学（総合的な探究の時間）」や「命の教育」の取組等をとおして、主体的に社会を生き抜く力（人間力）の育成を図りたい。
○ 地域（児童や事業所等）と連携した取組を継続して実施されることを期待する。		

